



親和銀行

特選ぶり、ひらまさ、黒まぐろ産直便
五島列島激流育ち。

株式会社徳丸とくまる

代表取締役
大坪 国明氏おおつば くにあき

取引店／親和銀行 新上五島支店
十八銀行 上五島支店

■会社概要

創業:1976年／設立:1999年／所在地:長崎県南松浦郡新上五島町／
資本金:600万円／従業員:11名／事業内容:ぶり・ひらまさ・黒まぐろ
の養殖



新上五島町の神部漁港前(左から大坪社長、吉澤頭取)

五島列島・若松島で後発組として創業 台風と震災の試練を乗り越え

長崎・五島灘の激流で育てた健康で安全な美味しい魚を、1人でも多くの皆さまに味わっていただくことが当社の創業時から変わらな
い願いです。

当社の養殖場は長崎県の西海国立公園内、
広葉樹の森と美しい海に囲まれた若松島にあ
ります。海岸線がとも入り組んでいるため
に潮流が速く、透明度が高いことが特徴の海
です。古くから私の実家ではこの若松島で煮
干しにするためのキビナゴ漁で生計を立てて
いたそうですが、1976年、父・大坪徳雄とくお
が、自身の名前から「徳丸」という屋号で、約
3,000尾のぶりの稚魚を養殖し始めたの
が当社の始まりです。ただし、当時は既に同業
者も多く存在し、さらに後発組であったため、
養殖場としては条件があまり良くない場所を
割り当てられるなど、とても苦労したよう
です。創業当時小学生だった私は、学校が休みの
日には作業の手伝いをしていました。当時は
給餌船などなく、餌をのせた筏を船でけん引

し、生け簀まで運んでいました。

その後、地元の高校を卒業すると同時に島
から出て企業に就職すると、仕事振りを買わ
れ20歳で重職を任されることになりました
が、父の養殖が軌道に乗り始めていたことも
あり、1986年、父と相談して帰郷するこ
とにしました。

ところが翌年、大変な災難に襲われること
になりました。超大型の台風12号が東シナ海
を北上し、上五島でも多くの灯台をなぎ倒す
ほどの強風が吹き荒れたのです。長崎県の多
くの水産施設が未曾有の被害を受け、当社の
養殖場も強い波を受けて養殖生け簀が破損
し、ぶりが逃げ出すなどの壊滅的な状況に陥
り、大きな借金を背負うこととなりました。
その当時、廃業に追い込まれた同業者も多い
中、当社は歯を食いしばって再建を目指し関
係取引先をはじめとする皆さまの援助もあっ
てどうにか乗り切ることができました。

養殖業は自然の恵みで成り立っている一
方、自然との闘いでもあります。1994年に
発生した阪神・淡路大震災でも当社は大打
撃を受けることになります。主な市場であった





大坪社長

関西地区向けの出荷が全て止まり、価格も暴落。多くの魚の在庫だけを抱えることになり、再度多額の借金を背負いました。この時もあり難いことに、関連の皆さまからの支援をいただき、現在に至るまで事業を継続できる状況になりました。

1999年には「有限会社徳丸」を設立し、一般消費者向けの通信販売も開始。ひらまさや黒まぐろの養殖も始めました。養殖場と養殖魚数、給餌船の数も増加し、昨年4月から「株式会社徳丸」として事業を拡大しています。

独自に餌の配合を改良

省力型給餌船の開発で県知事賞受賞

美味しい魚を育てるために重要なポイントは餌です。かつては生の小魚が主流でしたが、今は衛生的で栄養素の管理が容易な固形飼料が中心となっています。特に当社で使用する飼料は、研究機関とタイアップして開発したオリジナルの配合です。魚の成長や水温などの様々なデータから魚の運動量を解析し、魚の状態、成長ステージに合わせて必要な栄養素（蛋白質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル等）を毎月の魚体の検量結果に基づいて必要量だけを与えています。さらに生け簀1台当たりの魚の数を少なく飼育していますので、ノビノビと遊泳して成長した魚はとても健康的で余分な脂がありません。

また当社が保有する給餌船は全てオーダーメイドで、船舶メーカーの協力のもと最新鋭の省力型給餌船を設計・建造しています。例えば、これまでは12トンもの餌を船に積載するために、手作業で20kgの餌袋を1袋ずつ600回も担ぐ必要がありましたが、現在は



8 6



1.50kg以上に育った黒まぐろは養殖場から手作業で1本ずつ水揚げする／2.水揚げした黒まぐろは1本1本、丁寧に洗浄する／3.黒まぐろ検量の様子／4.魚の状態に合わせて必要な栄養素を配合した固形飼料／5.給餌船を見学／6.五島列島若松島の養殖場／7.金太郎まぐろを試食／8.企業メッセージ





前列左2番目から大坪良徳氏、大坪社長、吉澤頭取、竹山支店長(親和銀行)、大坪^{しげこ}茂子氏

500kg入の餌袋を船舶クレーンによって積載できるので、給餌作業も機械化し、時間も労力も大幅に軽減できます。これら当社の取り組みは、養殖規模の拡大、低コスト化、経営の安定化、国内外への売上向上に寄与すると評価され、2018年度の『ながさき水産業大賞 魅力ある経営体部門 技術・担い手の部長崎県知事賞』を受賞しました。

また健康で安全な美味しい魚を育てて出荷することを最優先し、欧米への輸出に対応するために、当社の漁場は『EU・HACCP』(※)も取得しています。

(※)EU衛生基準。日本からEUに輸出する水産食品関係の施設、衛生管理などに厳しい要件が定められている。

『激流育ち』の美味しさをそのまま食卓へ

当社の養殖場は潮の干満のたびに最大で5ノットの急流となり、潮流によって酸素が多く含まれた海水が常に魚の周囲に流れ込みます。その豊富な酸素によって魚の運動量と代謝が活発になるため、魚たちは健康に育ち、身も引き締まります。

現在当社で養殖している魚は、ぶりが最も多く6割を占めるほか、黒まぐろが3割、ひらまさ1割となっています。旬の時期には、「五島列島激流育ち」のブランドとして当社ホームページで直売を行っているほか、日本全国の市場、さらには米国・欧州・東南アジアにも輸出しています。ぶりに関しては、新上五島町のふるさと納税の返礼品としても人気の商品で、多くの方に選んでいただいています。

また、当社の養殖黒まぐろは「金太郎まぐろ」の名で出荷しています。沖縄・南西諸島で生まれ東シナ海を北上し五島灘にやってきた幼魚を一尾ずつ丁寧に釣り上げ、この若松島の生け簀で3〜4年の歳月をかけて50kg以上のサイズになるまで育てるのです。2006年より当社で取り組んだ上五島初のまぐろ養殖も試行錯誤ではありましたが、今年で13年目を迎え安定した生産ができるまでになりました。

養殖業の未来を拓く これからの歩み

養殖業は市場価格や自然条件に影響されやすく、継続することは決して簡単な事業で

はありません。五島列島・若松島で最盛期に140あった養殖業者は、現在では7つにまで減少しています。しかし私は日本の養殖業の未来は明るいと信じています。

なぜなら海外の需要はこれから益々増加することが期待されますし、日本食ブームの到来で安心・安全で、美味しい日本の魚の人氣は高くなっているからです。しかし日本人が好む味と欧米・アジアで好まれる味は異なります。そのために、各地域で好まれる魚の味をもっと研究しなければなりません。

今から3年前、それまで東京・築地市場で働いていた長男・良徳よしのりが当社に入社しました。給餌船に乗り炎天下に汗を流しながら働いていました。五島灘の美味しさを一人でも多くの方に届けたいという思いもきつと同じでしょう。

当社が創業から43年、養殖業を続けることができたのは、多くの方々に支えられたからこそだと思っています。困った時、苦しい時にどれだけたくさんの方に助けていただいたことでしょうか。その支えがなければ現在の当社はありません。だからこそ私自身もこれからもっと多くの方の力になりたい。次の時代を担う若者を育てる力になりたいと考えています。

■ インタビューを終えて

親和銀行 取締役頭取 吉澤 俊介

台風による未曾有の被害や、阪神・淡路大震災の深刻な影響を受けつつも、その度に克服され、自ら餌の改良に取り組み、独自の発想で省力型給餌船を開発するなど、常に研究を重ねながら堅実な経営が続けられています。また、海外にも販路を広げて、五島列島の養殖業の推進役として活躍されています。

これからも次代を担う若者を育てるとともに、長崎県の経済を支える水産業の発展のため、ともに尽力されることを願っています。

